

2024年2月8日

九州実務補習所
2023年 2023 年 期 生 各 位

一般財団法人会計教育研修機構
九州実務補習所運営委員会

第2回ディスカッションテーマについて

2024年2月15日(木)開催

2024年2月15日(木)に開催する「第2回ディスカッション」のテーマが、下記のように決定いたしました。

記載のテーマを読み、各自の考えをまとめてくるようにしてください。
なお、関連資料は各自で集めてくるようにしてください。

テーマ1 (フリーディスカッション)

最近の社会情勢の変化を受けて、公認会計士の果たすべき役割がどのように変化しているか、について考えるとともに、将来自分の目指す公認会計士像について議論してください。

なお、その際、下記のリンクも参考にしながら、以下の視点を踏まえて議論を進めてください。

- ① IT/AIの発展等、近年の著しい技術革新が公認会計士の監査に与えている影響
- ② 気候変動や社会の持続性を脅かす問題が公認会計士の活躍領域を拡大させている状況

参考リンク

[20231215_chuo.pdf \(fsa.go.jp\)](https://www.fsa.go.jp/20231215_chuo.pdf)

[3-99-0-0-20220420-2.pdf \(jicpa.or.jp\)](https://www.jicpa.or.jp/3-99-0-0-20220420-2.pdf)

テーマ2（グループ討論）

情報技術の高度化や開示制度の複雑化への対応、そして諸外国と比較しても業務に応じた十分な対価が得られていない等の理由で、近年、会計監査人による被監査会社への監査報酬の値上げ交渉が進んでおり、また、被監査会社が値上げに応じられない場合には会計監査人の交代も増加している傾向となっています。

Q 監査法人もこれらの要因をふまえ、これまで 20 百万円であった監査報酬を翌期は 40 百万円が妥当であるとして、被監査会社である P 社経営陣に提示しました。

A チーム：Q 監査法人（監査報酬を上げたい）

B チーム：P 社経営陣（監査報酬は据え置きにしたい）

と、それぞれの立場にポジションをとり、相手の意見に対して、その”立場”に応じた”合理的な”反論をしながら、議論を深めてください。

参考資料・情報：公認会計士協会「監査実施状況調査(2022 年度)」

https://jicpa.or.jp/specialized_field/20231220ggj.html

テーマ3（グループ討論）

1 班

2025 年 3 月期から東証プライム市場で英文開示が義務化されるが、監査を行う会計士に英語力は必要か否か。

A 案：必要である

B 案：必要でない

2 班

サステナビリティ情報開示など会計士の役割が広がる中で、人的資源の限界や時間的制約の観点から有価証券報告書の提出期限を 3 ヶ月から延長すべきか否か。

A 案：賛成

B 案：反対

3班

2022年4月から、高校の授業で金融教育が必修化されました。

「諸外国に比べて大きく遅れている」と言われて久しい日本人の金融リテラシー向上に向け、ついに政府主導で改革のメスが入ったのです。

この、金融教育義務化に対して、金融教育は必要と考えるか。

A案：必要である

B案：必要でない

※ レポーターは、論点整理をしたレジюмеをA4用紙1枚程度で作成して、2月13日(火)までに事務局へ1部提出すること。(FAXでもメールでも構いません)

さらに、ディスカッション当日に班人数分+担任分(最大19部)を用意してくること。

(事務局のコピー機を使用する場合は、原稿を1枚持参のうえ、時間に余裕をもって来ること。)

【レジюме提出先】

九州実務補習所 事務局

F A X : 0 9 2 - 7 1 5 - 3 6 6 4

M a i l : hokubuk-hosyu@sec.jicpa.or.jp

※ レジюмеには、補習生番号、氏名、班、テーマ(2か3か)、派(A案派かB案派か)、を必ず記載すること。

注 意: レポーターでディスカッション当日に出席出来ない事がわかっている場合、必ず出席する補習生と交代するとともに、その旨を事務局に連絡すること。

尚、レポーターが無断欠席した場合、既に取得した実務学習単位から3単位を減ずる場合があるので注意すること。